機関誌『日本考古学』執筆要項

原稿送付時には＜原稿送り状＞に必要事項を記入したものを必ず同封してください

１．原稿種類・枚数

原稿の種類は論文、研究ノート、遺跡報告、書評、研究動向があり、その判断については最終的に編集委員会が行います。

頁数については、それぞれ図版・和文要旨・英文要旨を含み、論文は20頁以内、研究ノートは10頁以内を厳守ください。遺跡報告は10頁、書評は４頁、研究動向は８頁を目処とします。

２．著者名

筆頭頁には著者名、文末には著者名と連絡先の掲載が必要です。所属先名とその住所、個人住所、メールアドレスのいずれかを一つは掲載してください。また連名の場合には、本文中に執筆分担もしくは作成事情等、文末に責任著者一名を明記してください。

３．キーワード

書評以外の原稿は、キーワードを対象時代・対象地域・研究対象の３項目について、それぞれ３点以内（句読点含む）・合計20文字以内で明記してください。

４．論文要旨

和文要旨は44字×20行程度の文字数でそれぞれの筆頭頁に、英文要旨は文末に掲載します。英訳が不可能な場合は編集委員会で行うので、和文で44字×10行以内の文章を用意してください。また、遺跡名・人名にはふりがなを、特殊な考古学の用語にはイタリックの指示を入れてください。

５．割付見本

本誌はＡ４判・単色刷りで、版組を25字×48行の横２段組（和文・英文要旨頁は別組）としています。図版・写真・表については、１頁幅の場合は左右168㎜・天地の上限は232㎜、半分幅の場合は左右80㎜、天地の上限は232㎜として作成してください。なお、その範囲のなかにキャプションは含みません。原稿送付の際は必ず割付見本も同封ください。

６．原稿等の送付について

１）文書　文字原稿は、必ずテキスト（txt）で保存したデータと打ち出し原稿の２つを提出してください。

２）写真　銀塩写真は、モノクロの場合は印画紙に焼きつけ、カラーの場合はリバーサルフィルムでの提出がのぞましいです（ただし、掲載時はすべてモノクロ仕上げ）。電子媒体は保存したデータの他に、必ず紙媒体へ出力したものを同封してください。本文データに埋め込みやリンクした場合は元画像のファイルも併せて提出願います。

・電子媒体の入力条件：グレースケール300dpi以上、原寸以上で入力してください。

・電子媒体の保存条件：ワード・エクセル・一太郎へ貼り付けたものは使用できません。また、tiffでの保存を推奨しますが、jpgの場合は低圧縮を選択して保存願います。

３）図版　紙媒体で制作する場合は、トレース図など清書したもので提供ください。電子媒体で制作の場合は、保存したデータの他に、必ず紙媒体へ出力したものを同封してください。本文データに埋め込みやリンクした場合は元画像のファイルも併せて提出願います。

・電子媒体の入力条件：線画のスキャニングは1,200dpi以上で、写真扱いの場合は、モノクロ２階調グレースケール300～350dpi原寸で取り込んでください。

・電子媒体の作図条件：線幅は0.25point以上で作成し、下絵画像は透明機能は使用せず削除しておいてください。黒部分はグレースケールで指示し、線の不必要な塗りの情報は入れないでください。

・電子媒体の保存条件：aiまたはepsで保存したものを提供してください。ワード・エクセル・一太郎

へ貼り付けたものは使用できません。線・画像はロックをかけるかアウトライン化し、図中の凡例などは、別のレイヤーに打ち込みアウトライン化はしないでください。

７．本文中の表記等

１）章立ての数字には、ローマ数字を用います。「はじめに」と「おわりに」は数字を付さないでください。

２）度量衡単位は、㎝、㎏、㎥などの１字扱いの記号を、数量は算用数字を使用します。

３）外国語関係（中・韓を除く）固有名詞は、原則としてカタカナ書きとし(　)内に原語を記入します。
例：Ａ．Ｌ．クローバー（Krober）

４）年代表記は、西暦と和暦を併記してください。ただし、引用箇所はこの限りではありません。
例：2013（平成25）年

５）註は、本文中に通し番号を右肩付き1/4サイズで記載し、文章末尾の参考文献の前に一括して掲載します。
例：影響を受けた1)とされている。

６）句読点については　、　と　。　を使用します。

７）本文中の参考文献は、丸括弧のなかに著者名（名字のみ）と刊行年を明記し、引用箇所が明確な場合はその頁数を記入してください。同姓の場合は例にしたがってください。
例：＊＊＊＊（田中2011）。　　＊＊＊＊（小林達1988、25-56頁）。

８）団体・組織名の(株)や(財)は記載しません。

９）引用文などで、一重カギ括弧のなかに入る一重カギ括弧は二重カギ括弧とします。
例：その報告書では「重複しつつ築造するものを『連結式』」としている。

10）文末の文献一覧は、日本語文献と外国語文献、論文と報告書など区分をつけて記載することができます。日本語文献については50音順、それ以外はアルファベット順にそろえてください。
日本語文献の末尾には　。　を使用しませんが、外国語文献の末尾には　．　をつけます。
記載順は、著者名　発行年「論文名」『書籍名』号数　発行機関名　とします。
著者と訳者がある場合は、○○○○著（△△△△訳）とします。
著者が複数の場合は、３人目からを「＊＊＊ほか」としてもかまいません。
雑誌の号数については数字だけでなく、№や第＊巻第＊号を記載します。また著名な雑誌であっても、発行機関名を記入してください。
同著者の同年刊行の文献は、刊行年の後にa・b・c･･･を入れてください。

11）執筆者の手によらない図版・表・写真は、必ず典拠を明記してください。それぞれのキャプション中でも、文末に出典一覧を添える方法でもかまいません。

12）許可が必要な図版・写真などをお使いの場合は、執筆者が許可を得てください。

８．校　正

執筆者校正は、原則として初校のみといたします。

－－－編集後記－－－

今号は論文４本、研究ノート１本、遺跡報告１本、書評３本、研究動向２本を掲載し、時代的には古代を除き、旧石器から中世・近世までを対象とする幅広い内容となりました。

これまで本誌には何回か論文を掲載していただきお世話になりましたが、まさか自分がその編集のお手伝いをするとは思いもよらず、編集後記を読んだことはありませんでした。編集後記の執筆にあたり前例を参照しましたが、実に多様で人柄が出るようです。

教育勅語の再評価が表立って行われつつある今日、私たち考古学に携わる者には、戦後の日本考古学が歩んできた物的証拠に基づく歴史叙述の大切さを改めて広く国民に伝える使命があるように感じます。

投稿にあたっては内容に照らし合わせてカテゴリーを明示の上、投稿規定を順守願います。　（せ）

【編集委員会】篠原和大（SHINOHARA Kazuhiro・理事）　関根達人（SEKINE Tatsuhito・理事）
小林謙一（KOBAYASHI Ken'ichi・東京都）　松木武彦（MATSUGI Takehiko・千葉県）
松本太郎（MATSUMOTO Taro・千葉県）　山本孝文（YAMAMOTO Takafumi・埼玉県）

【英文要旨】コジリアン直子氏（Miss.COJIRIAN Naoko）にご協力いただきました。